

島根県の地震

令和8（2026）年2月

・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。

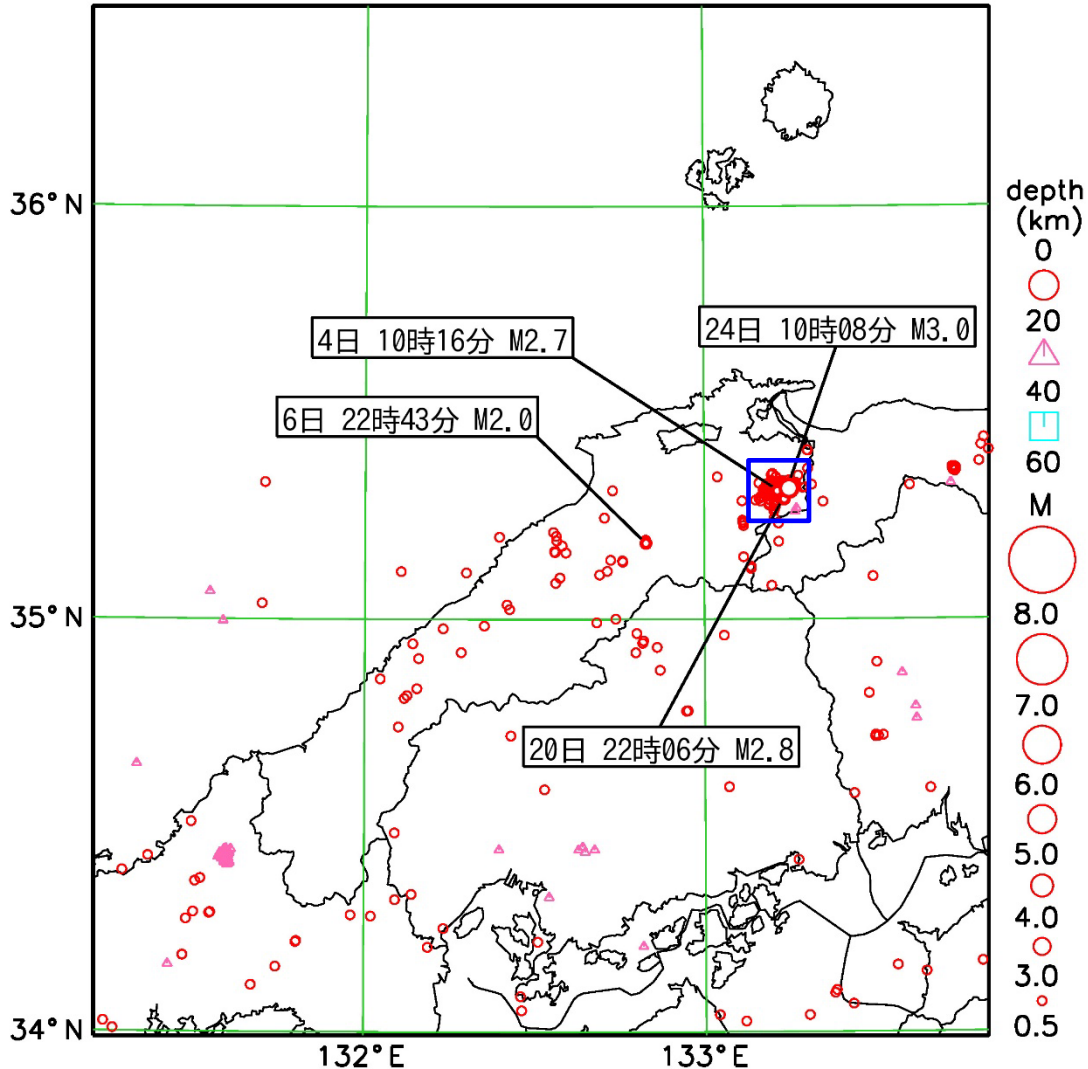
また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動 2026年2月1日～28日

2026 02 01 00:00 -- 2026 02 28 24:00

N=527



[概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は527回（1月は3293回）でした。

また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、5回でした。

4日10時16分 島根県東部の地震（深さ13km、M2.7）により、安来市、鳥取県南部町で震度1を観測しました。

6日22時43分 島根県東部の地震（深さ5km、M2.0）により、雲南市で震度1を観測しました。

20日22時06分 島根県東部の地震（深さ10km、M2.8）により、安来市・奥出雲町で震度1を観測しました。

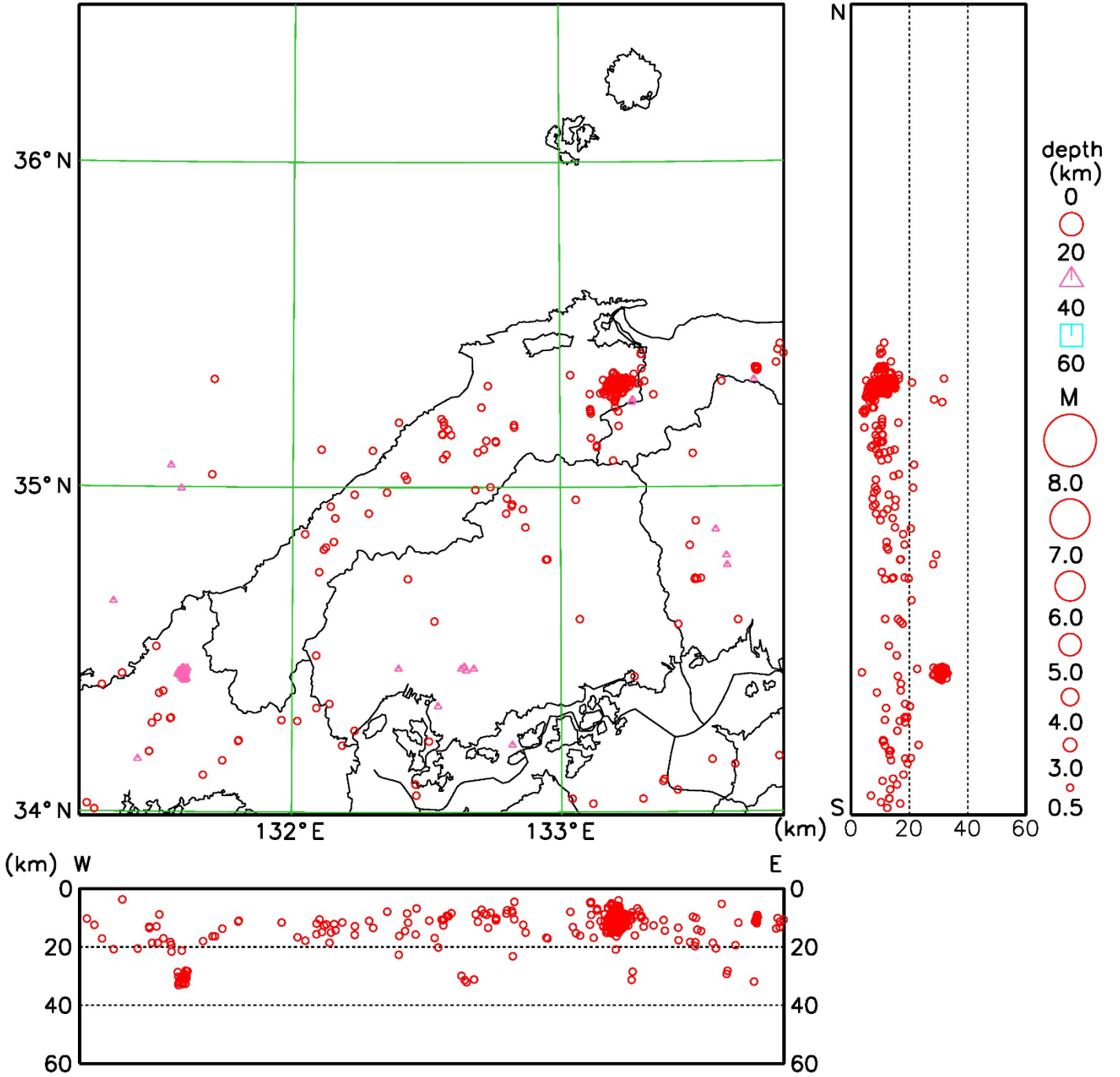
24日10時08分 島根県東部の地震（深さ10km、M3.0）により、松江市・安来市、鳥取県米子市・南部町で震度1を観測しました。

25日18時07分 四国沖の地震（深さ33km、M5.0：地図範囲外）により、益田市で震度1を観測しました。また、熊本県産山村・高森町・美里町、大分県佐伯市・竹田市、宮崎県延岡市・門川町・高千穂町・美郷町で震度2を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度1を観測しました。

なお、1月6日10時18分の「島根県東部の地震（M6.4、最大震度5強）」の震央付近（震央分布図青枠内）では、震度1以上の地震回数は減少してきているものの、地震発生前より地震が多い状況が続いています。

[断面图]

2026 02 01 00:00 -- 2026 02 28 24:00



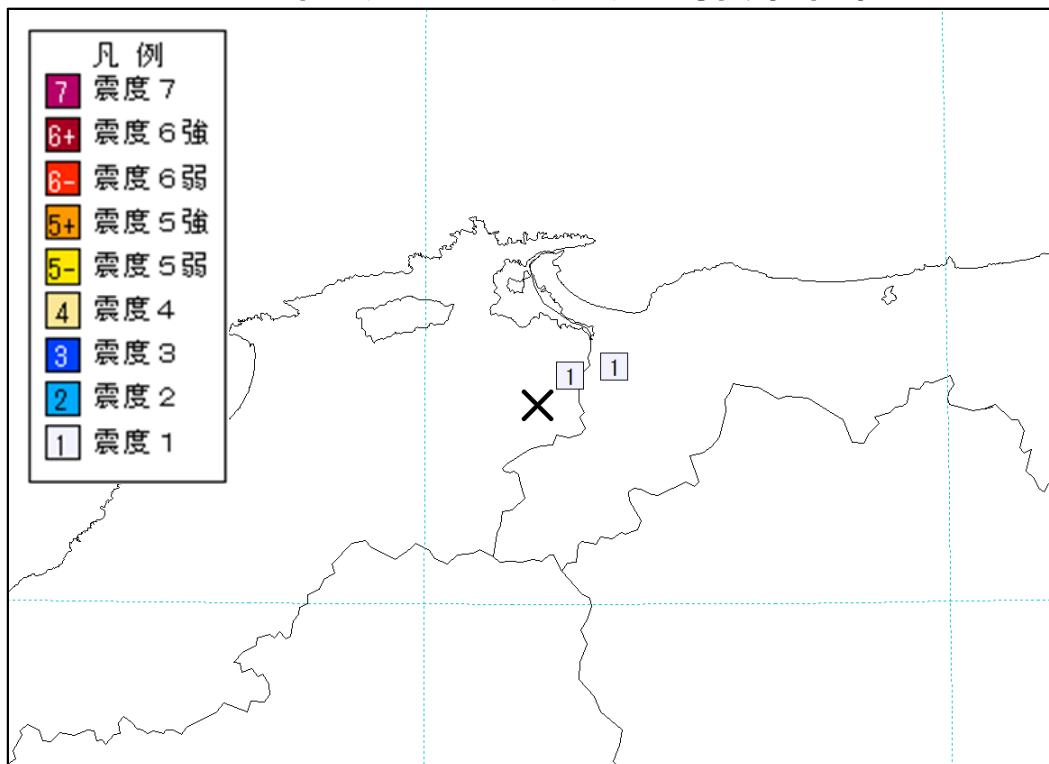
2月の島根県内の地震表（震度1以上）

| 発震日（年月日時分） 各地の震度（島根県内のみ掲載） | 震央地名 | 緯度 | 経度 | 深さ | マグニチュード |
|---|-------|-------------|--------------|------|---------|
| 2026年02月04日10時16分 ----- 地点震度 ----- 島根県 震度 1：安来市伯太町東母里 * | 島根県東部 | 35° 18.6' N | 133° 12.9' E | 13km | M2.7 |
| 2026年02月06日22時43分 ----- 地点震度 ----- 島根県 震度 1：雲南市掛合町掛合 * | 島根県東部 | 35° 11.0' N | 132° 49.6' E | 5km | M2.0 |
| 2026年02月20日22時06分 ----- 地点震度 ----- 島根県 震度 1：安来市伯太町東母里 *，奥出雲町横田 * | 島根県東部 | 35° 17.4' N | 133° 14.2' E | 10km | M2.8 |
| 2026年02月24日10時08分 ----- 地点震度 ----- 島根県 震度 1：松江市東出雲町揖屋 *，松江市八雲町西岩坂 *，安来市広瀬町広瀬祖父谷丁 * 安来市伯太町東母里 * | 島根県東部 | 35° 18.9' N | 133° 15.0' E | 10km | M3.0 |
| 2026年02月25日18時07分 ----- 地点震度 ----- 島根県 震度 1：益田市常盤町 * | 四国沖 | 32° 08.9' N | 132° 42.2' E | 33km | M5.0 |

・地点名の後に*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

【観測点震度分布図】

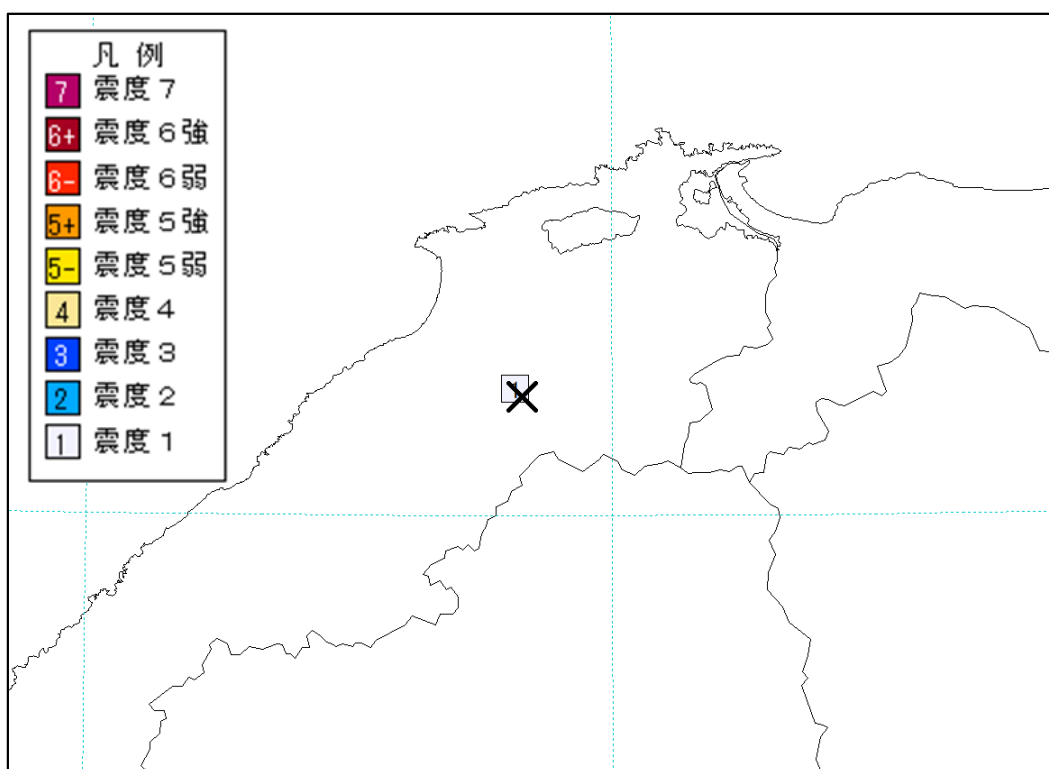
2026年2月4日10時16分 島根県東部



×印は震央を示す

【観測点震度分布図】

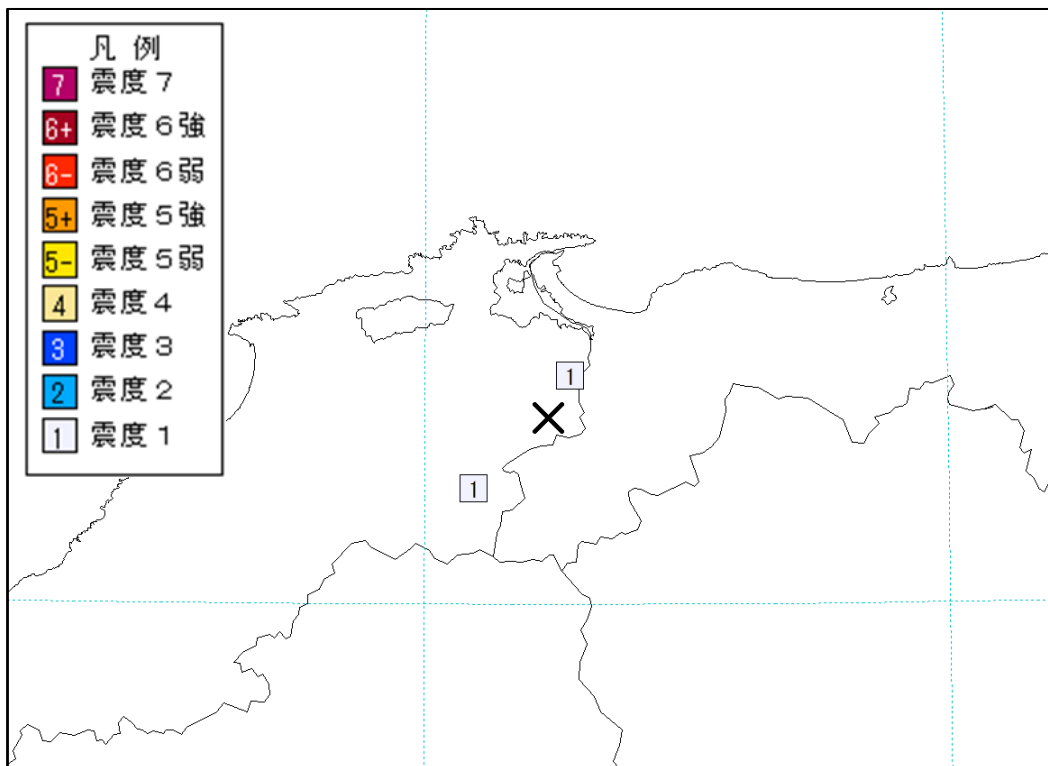
2026年2月6日22時43分 島根県東部



×印は震央を示す

【観測点震度分布図】

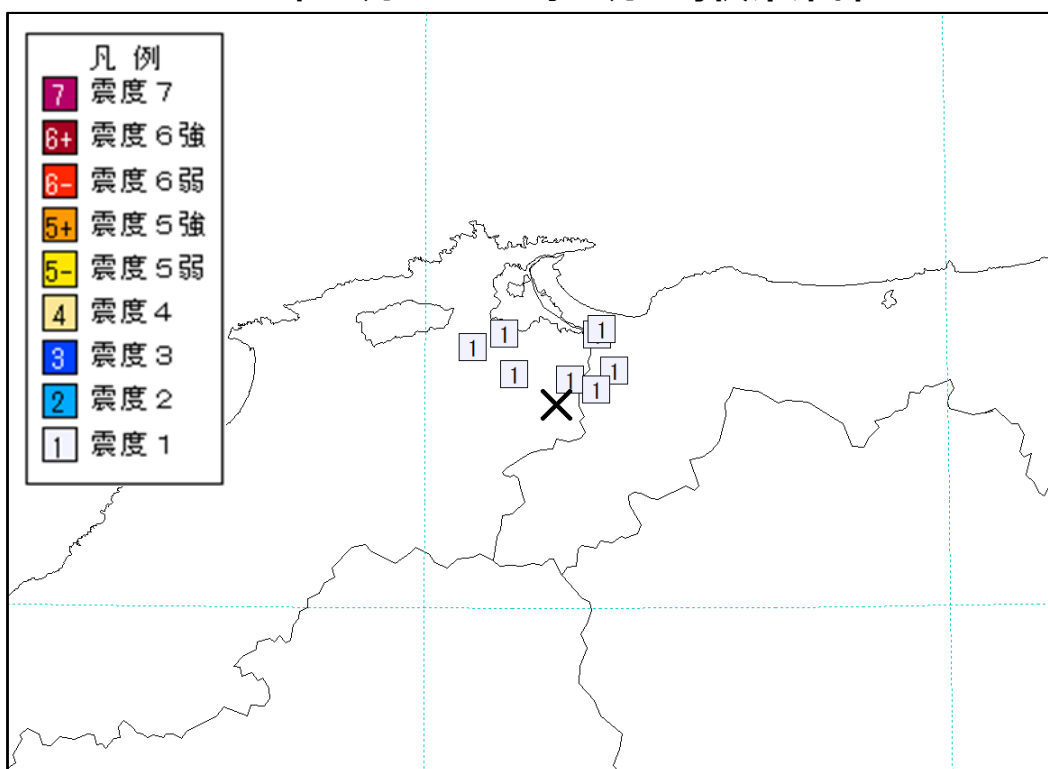
2026年2月20日22時06分 島根県東部



×印は震央を示す

【観測点震度分布図】

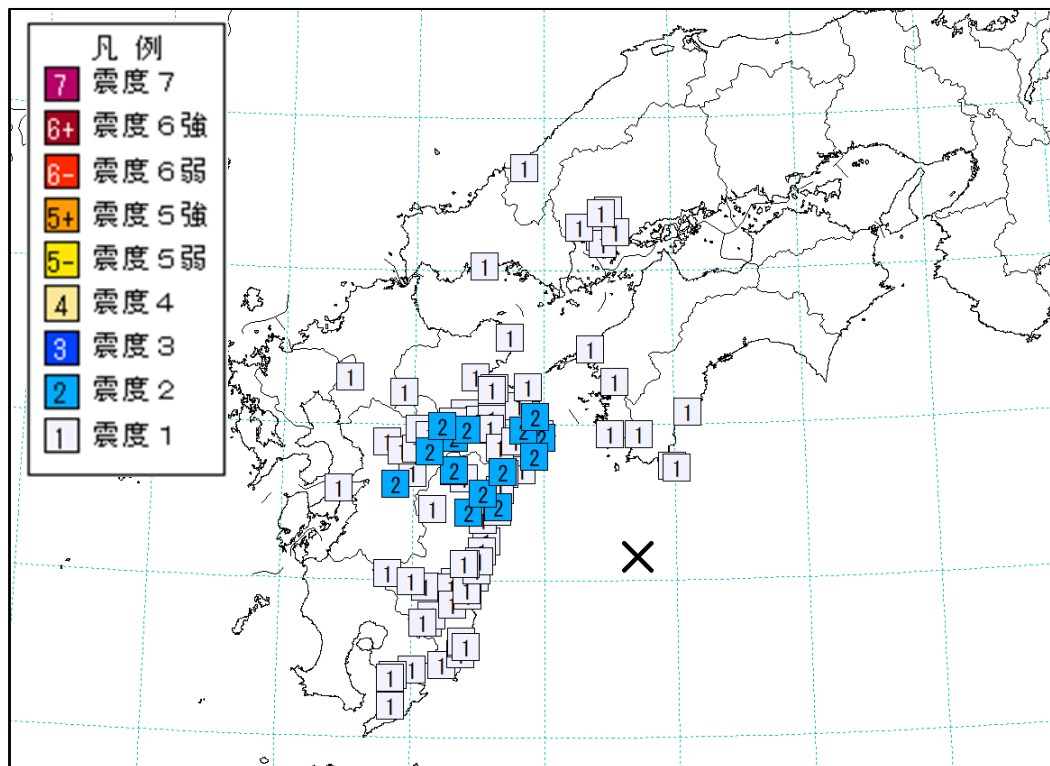
2026年2月24日10時08分 島根県東部



×印は震央を示す

【観測点震度分布図】

2026年2月25日18時07分 四国沖



×印は震央を示す

地震一口メモ

陸域の浅い地震と活断層

○陸域の浅い地震について

日本周辺では図1の通り、海のプレートが陸のプレートの方へ1年あたり数cmの速度で近づき、複数のプレートがぶつかりあっているため、プレート内部には大きなひずみが蓄えられています。それが限界に達したとき、岩盤がある面(断層)を境に動き地震が発生します。このため、海のプレート境界やプレート内のほか、陸域の浅い所(深さ約20kmより浅い所)でも多くの地震が発生します。これを「陸域の浅い地震」と呼びます。今年1月6日10時18分に発生した「島根県東部の地震(M:マグニチュード6.4、最大震度5強)」も「陸域の浅い地震」です。

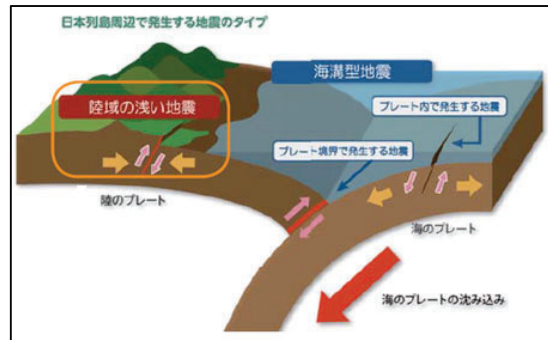


図1 日本周辺で発生する地震のタイプ
(文部科学省・気象庁パンフレット「活断層の地震に備える」より)

○中国地域の活断層の地域評価について

過去に繰り返し地震を起こし、将来も地震を起こすと考えられている断層を「活断層」と言います。

日本の周辺には約2,000もの活断層があり、それ以外にもまだ見つかっていない活断層があるとされています。このため、周辺に活断層が確認されていない場所でも、被害が出るような地震が発生することがあります(例:「平成12年(2000年)鳥取県西部地震」)。

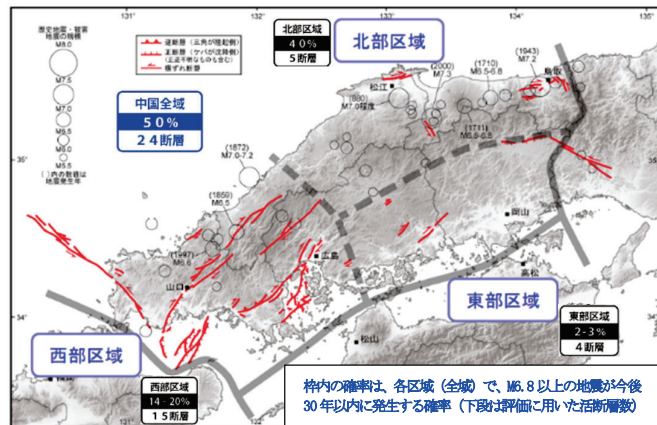


図2 中国地域において評価の対象とする活断層及び歴史地震・被害地震(M5.5以上)の震央、中国地域の活断層で発生する地震の長期評価(地震調査研究推進本部「中国地域の活断層の長期評価(第一版)」より一部加工)

<各区域の特徴>

北部区域:活断層は少ないが、地震活動は比較的活発。
東部区域:活断層も少なく、地震活動も低調。
西部区域:活断層が相対的に多く、活動性も概して高い。

地震調査研究推進本部では、地域毎にM6.8以上の地震を引き起こす可能性がある活断層を総合的に評価する「地域評価」を行っています。活断層の分布・特徴、地質構造や地震活動の特性を基に、中国地域では北部、東部、西部の3つの区域に分割し活断層で発生する地震の評価※を行っています(図2)。

※地震調査研究推進本部「地震に関する評価」:<https://www.jishin.go.jp/evaluation/>

図2から活断層が少ない北部区域でも被害地震が発生していることが分かります。

岡山県から広島県にかけては、被害地震が発生していないように見えますが、活断層の活動の周期は数千年程度と長いので、過去に被害をもたらした地震が発生していないからといって安心というわけではありません。

陸域の浅い地震の規模は、プレート境界で発生する地震に比べ小さいことが多いですが、地震が発生する場所が浅く、真上に人が住む地域に近い場合が多いため、強い揺れにより大きな被害をもたらすことがあります。

やはり地震に対しての日頃からの備えを心がけておくことが大切です。

(参考)地震から身を守るために:https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/jishin_bosai/index.html